

21.暮らしの安全は防災＋福祉＋まちづくりの三位一体化

現代社会は少子高齢化、地方の過疎化、地域コミュニティの劣化、都市集中といったことが課題になっています。そのために、防災文化という視点からも自然災害への対応もこれまでとは異なる対応が必要となっているようです。これまでの何とかかなった、何とかかなるといような状況ではなくなっています。防災も人と地域の安全、安心が目的ですが、防災というだけの視点だけでなく、福祉やまちづくりといった至近距離にある領域と同じ目線で考えていかないといけないということになります。防災が完全なハード対策でカバーできるのであればよいのですが、自然現象は抑止できませんし、自然災害の影響は読めないということになれば、防災対応は別の視点からの構想が必要となるのは当然のことです。

確かに、いまは財政難とはいえ、研究ならびに技術開発が進み、観測体制も以前に比べれば質、量ともに充実しています。災害があれば情報が多くなってきていますが、災害は発生頻度、規模ともに多様化してきていますので、これまでの延長上では不十分なのかもしれません。しかし、いまあるものを最大限に活用して効果を上げるには、様々な資源を上手く活用することではないかと思えます。その中には、住民の意識向上が伴わなければ持ち腐れになるというのもあります。防災は、あらゆる面で突発性のものへの対応ですので、むしろ福祉の充実やまちづくりという恒常的な中に防災を取り入れることの方が効率的だし、住民の関心や理解も早いし、効果が見えるのではないかと思われます。

福祉と防災の関係を具体的に見ると、まず、災害時要支援者の支援体制を確立することです。これまで相互の情報の共有がうまくいかないこともあったので、知恵や工夫が必要です。次に地域や世帯ごとのリスクについて確認するということが災害の対応上重要になります。これも課題はありますが、なんのためにということを明確にして理解し、その方法を探ることが大切だと思います。三つ目は、災害時に正確で信頼のできる情報を発信し伝達することです。これらは、一見簡単なようですが、多くの地域で十分ではありません。

災害に強い街づくりということがよく言われます。災害に強いとはなんなのかですが、一言でいえば、災害リスクを理解して、ハードを評価しソフト対策を充実させることだと思います。多くのところで、防災行動マップや、避難所運営マニュアルなどが作成されていますし、役割分担も決められていると思いますが、実際に見直しや模擬訓練を通して課題や問題点を洗い出して確認や検討をしているところは少ないと思います。最近各地で起きている災害例などを事例として更新する必要があると思います。このような福祉やまちづくりをからめた防災構想は、まずは住民の方々の地域への関心が大きな力ですし、アンケートなどでも地域を知りたいという意見が相当な割合で示されています。住みたい地域は利便性や施設といったこともありますが、基本には安全・安心でなければなりません。地域にかかわる様々な中に、防災が主役になる必要性はなく、快適で安全・安心な社会のミネラル的な役割が果たせることが望ましいと思っています。